熱心に取り組むこどもたちの姿！

児童生徒たちが、目標達成に向けて学ぶ様子や有意義な活動を続けている事例をご紹介しています。これらの活動や事例は、こどもが目標を見つけるきっかけやヒントにもつながるので、親子で一緒に読んだり考えたり、話し合う機会をもってみましょう。

ひろしま自慢 発表大会　戸河内中学校

地域と生徒が協力し伝統の舞いを復元！

戸河内中学校区の上殿地域に伝わる、田植えの際、豊作を祈り舞われた田楽は、以前は盛大に行われていましたが、今は継承する人が少なくなり、あまり盛んではなくなっていました。そんな中、故郷を元気にしたい、地元の方々に喜んでもらいたい、という思いで、先輩たちが田楽を地域の方から教わり、復元しました。今回はその意志を受け継いで力一杯踊ります。また、「ふるさと自慢」が戸河内で開催されるので、おもてなしの心を込め、全校生徒の歌声もお届けします。

ひろしま自慢発表大会とは

児童生徒が発見した宝（地域の伝統、芸能）を継承・発展させたり、新たな宝を創造したりするなど、郷土ひろしまに対する理解を深め、児童生徒が郷土愛を育成していく取り組みです。

今年度は、平成25年11月16日（土）に、戸河内ふれあいセンター、熊野町民会館、福山市北部市民センターの3会場で開催します。

農業高校 農業技術大学校合同フォーラム　庄原実業高等学校

夢の実現に向け農力開発にチャレンジ！

農業の専門高校として、100余年の歴史をもつ庄原実業高等学校では、「社会で通用する人材の育成」と「農業高校拠点校としての教育活動の推進」を目標に掲げ、自立心や主体性、夢や感謝の心を持った、農業の担い手育成に取り組んでいます。

8月に開催された「農業高校・農業技術大学校合同フォーラム」では、生物生産学科の生徒が、「人と人をつなげる農業を！」というタイトルで、学校での研究内容を発表するとともに、循環型の農業を確立し、信頼される稲作経営者になりたいと将来の目標を述べました。また、学校で培った技術を生かした大型フラワーアレンジメントを制作し、会場装飾に華を添えました。

フラワーアレンジメント制作中

「高校卒業後は、地元の稲作を中心とする農業法人に就職し、そこで農業経営のノウハウをしっかりと身に付け、ゆくゆくは自立して、自分で農業法人を立ち上げようと考えています。頑張ります！」（意見発表を行った生物生産学科3年の板金恭平くん）

ひろしま自慢 発表大会　福山北特別支援学校

練習の成果を披露！演出も加えたパフォーマンス

福山北特別支援学校では在籍している児童生徒と、卒業生やその家族も伝統の和太鼓演奏に取り組んでいます。練習では、リズムを演奏しやすくアレンジしたり、人気の楽曲を選んだり、活き活きと楽しめる工夫を取り入れ、新たな太鼓の楽しみ方を実践しています。

7月の「福北夏まつり」では、全身を使って表現する演奏や、かけ声で太鼓をたたき始めるなどの演出も加え、次々と楽曲を演奏し、力強い太鼓の音を響かせるこどもたちには、温かい声援が送られました。

生徒の声

- ともだちがたくさんできた。はくしゅをもらってうれしかった。
- 曲に合わせて、たいこをたたくのが楽しいです。
- どんどこすき　たいこがすき　どんどこでたいこたたく
- どんどこクラブは、小学部から高等部の生徒が練習しているのでにぎやかです。僕はリズムを覚えるのが苦手だけど、太鼓をたたくのは好きです。もっと上手になりたいです。

「龍神太鼓」や「ふくきた太鼓」、「マルマルモリモリ」を演奏するため、チームごとの練習も真剣そのもの！

特別支援学校におけるICTの活用　県立広島特別支援学校

iPadで膨らむ学習意欲

県立広島特別支援学校の児童生徒は、タブレット型情報端末の一つであるiPadで、文字を拡大したり、伝えたいことを写真の中から選んだり、わずかな動作で本をめくったり、筆順や計算をわかりやすい動画で確かめたり…と、障害の状態に応じて、児童生徒一人ひとりの可能性をいっそう引き出す道具として大変役に立っています。

離れた場所からでも同じ学年の友だちと一緒に学習している様子

なかでも、訪問教育を受けている児童生徒は、主に自宅で授業を受けるため、他の児童生徒と交流する機会が多くありません。そこで、教室と自宅にそれぞれiPadを置き、インターネット電話サービスの「スカイプ」を利用して、リアルタイムでお互い会話したり、表情を見たりしています。また、音楽の授業ではライブで合奏などしています。

リアルタイムで同じ活動を共有することができ、双方の児童生徒にとって、学習に取り組む意欲をどんどん膨らませる指導になっています。

ひろしま自慢 発表大会　熊野東中学校区

伝統の“熊野音頭”を情感豊かに表現！

熊野東中学校区（熊野東中・熊野第二小・熊野第四小）では、「豊かに表現する」ということを目標に、「群読」に取り組んでいます。今年の群読は「筆の都　熊野町」の伝統や町のすばらしさを歌った「熊野音頭」の歌詞に挑戦しています。発表当日は、3校の児童生徒総勢150名が、心と声を一つにして熊野町の良さを皆さんに伝えることができるよう、一生懸命頑張ります。

果敢に挑戦する児童生徒への支援　三原高等学校

病気と闘うこどもに笑顔を！ 思いをつなぎ発展させるボランティア活動

三原高等学校生徒会では、今年4月に開業した日本初の小児がん専門病院「チャイルド・ケモ・ハウス」への設立募金をこれまでの4年間取り組んできました。今後は全日制・定時制生徒会合同の取り組みとして、入院しているこどもたちと触れ合えるボランティア訪問を計画しています。12月26日の訪問に向け、ケアリングクラウン（病院などで心のケアをする道化師）についての講座を実施。35名の生徒が受講し、自分たちができるボランティアを考える機会として、有意義な一日となりました。

受講後のアンケートでは「いつもは経験できないようなことを間近で見たり聞いたりすることができた」「次は自分たちがこどもたちを楽しく幸せにしてあげたい」など、継続的に活動に関わっていこうとする生徒たちの挑戦する姿勢がうかがえます。

広島県教育委員会では、生徒が主体的に創意工夫に富んだ活動にチャレンジすることを応援しています。

ケータイ&スマホの問題からこどもたちを守ろう！

携帯電話やスマートフォン等の利用をめぐっては、急速な普及と、機能の高度化によって、**児童生徒がトラブルに巻き込まれる機会が急激に増えています。また、「無料通話・メッセージアプリ」（LINE等）を通じた犯罪被害、これを悪用した問題行動や犯罪も発生しています。**

これらの問題に対して、学校や家庭において情報モラル教育や規範意識を高める取り組みが一層必要となっています。本県では、こうしたトラブルからこどもを守るため、「**携帯電話の問題から子どもを守ろう運動**」を推進しています。

「携帯電話の問題から子どもを守ろう運動」とは

平成20年度に、教育長会、校長会及びPTA団体の代表で構成される「携帯電話等に係る啓発活動推進会議」が、携帯電話の問題からこどもを守るために、4つの提案を行ったものです。

携帯電話をめぐるトラブルから守る

45% の児童生徒が、「スマートフォンの問題点を知らない」、「わからない」と回答しています。

携帯電話への依存から守る

120分以上 「高校生が1日平均で携帯電話を使用している」と回答しています。

時間・金銭の浪費から守る

15万円 もの料金を、携帯電話のオンラインゲームを利用して請求された事例もあります。

トラブルからこどもを守るための4つの提案

1. 学校には **携帯電話の持ち込みをやめましょう**
2. 家庭では **保護者がこどもの携帯電話に責任を持ちましょう**
3. 家庭では **わが家の『ケータイルール』を作りましょう**
4. 学校では **発達段階に応じた情報モラル教育を徹底しましょう**

わが家の「ケータイルール」を作ってみよう

約半数の家庭で、携帯電話の使用について**特にルールを決めていない**と回答しています。携帯電話は、どんなときに必要なのか、何のために使うのかなど、お子さんと十分話し合い、家庭のルールを作ってみましょう。

わが家の「ケータイルール」10か条（例）

- 誹謗・中傷、いじめに使わない
- 家庭では、保護者のいるところで使う
- 保護者は、メール及び通信記録をチェックできる
- フィルタリング機能をはずさない
- インターネットに接続するときは、保護者の許可を得る
- メールの返信「5分ルール」でしばらない、しばられない
- 食事中や学習中は、電源を切る
- 学校のルールを守る
- 困ったことがあれば保護者に相談する
- ルールが守れないときは、使用を禁止する

この他、インターネット利用に際しての留意点やトラブル対応のアドバイスなど、詳しい情報は文部科学省のサイト「**ちょっと待って！ケータイ&スマホ**」で読むことができます。親子の話し合いの参考にしてみましょう。

ちょっと待って！ケータイ&スマホ　検索

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taisaku/1225103.htm